

令和7年度第3回鳥取県教育審議会生涯学習分科会兼鳥取県社会教育委員会議の概要について

令和7年12月24日 社会教育課

- 1 日 時 令和7年11月27日（木）午後1時30分から午後3時まで
- 2 場 所 県立倉吉体育文化会館 小研修室1
- 3 出席者 別添のとおり
- 4 会議概要

(1) 議事

令和8年度社会教育関係団体への補助金について

社会教育法第13条に基づき、令和8年度当初予算（要求中）で社会教育関係団体へ交付予定の補助金の内容について、事務局の説明を聴取したのち承認された。

（事務局の説明概要）

- ・令和8年度の補助金は、令和7年度予算と同額を予算要求中。補助金の額については、本来であれば3年に1度、過去3年間の補助対象経費の平均をベースに見直しをしているが、算定期間のうち令和5年度は新型コロナウイルスの影響があったことを考慮し、令和8年度予算においても現状の補助金額を維持している。
- ・臨時的な補助金として、日本ボーイスカウト鳥取連盟に対する第19回日本スカウトジャンボリー（広島県神石高原町）への派遣費用と、鳥取県子ども会育成連絡協議会に対する第53回中国・四国地区子ども会ジュニア・リーダー研修会（鳥取県大山町）開催費用への補助を予定している。

(2) 意見交換

今後の生涯学習のあり方（答申）素案について

今後の生涯学習のあり方（答申）に向け、これまでの審議経過をもとに作成した「素案」について議論した。

<委員の主な意見>

○「第2章 鳥取県の生涯学習振興施策の現状・成果と課題」について

- ・市町村が様々な機関と連携して生涯学習事業を実施していることについて、もっと具体例を記入した方がよい。特に、行政機関ではないNPO法人や民間企業との連携について取り上げるのがよいのではないか。

○「第3章 これからの生涯学習のあり方」の「視点4 学びの成果を地域で活用する仕組みの構築」について

【「(1) 目的と成果を見据えた講座の実施」について】

- ・公民館では、学びの成果を地域の活性化に生かすことが課題。具体的方策として「連続性のある学びの提供」があるが、もう少し具体的に示すことができるとよい。
→答申を受けて県は生涯学習の計画を策定予定。答申にどこまで具体的に記載するか検討したい。

【「(2) コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の充実」について】

- ・具体的方策として「教職員の社会教育士の増加」があるが、教員は多忙で講習を受講するのが難しい。
→教員に限定するのではなく、学校教育に携わる様々な職種の方の社会教育士が増えるとよい。他県では学校事務職員の社会教育士が増えている。
→講習を受講すると調整能力やコーディネータ技術を習得できる。教職員の社会教育士の増加について答申で触れておくことで、地域との連携を積極的に行っている学校に対して、講習受講に向けた後押しになる。

【「(3) ふるさとキャリア教育のさらなる推進」について】

- ・地域おこし協力隊は、地域外の視点を持ちつつ、その地域の魅力を感じ、何かをしたいと考えている方が多い印象。ふるさとキャリア教育の推進にあたり、地域おこし協力隊のことも答申に記載してはどうか。

- ・具体的方策の「地域の食や自然等のすばらしさを認識する機会の設定」の中に、地域の昔話を知るといふことも追記してほしい。

○「第4章 県に求められる役割、市町村に期待する役割」について

- ・関係機関との連携について、公的機関との連携は比較的やりやすいと思うが、今後は民間企業の人材も重要となってくると考える。民間企業の活用について考えてほしい。

○素案全体について

- ・ターゲット別のアプローチについて具体的に記載できるとよい。ライフステージの中でじっくりと学びに向き合える時間があると思う。例えば、大学生は生涯学習の中で、実際に地域の方と協働する機会がある。また、子育て初期の保護者は孤独を感じている方もおられることから、公民館等で学びを通じて横のつながりができやすいタイミングだと思う。そのような方により響くような記載があるとよい。また、働いている世代は忙しいが、キャリアが変わるタイミングで学びに出会う。いわゆる「大人の社会科見学」は視野を広げる機会となり、働いている世代に響くと思われるので、民間企業との連携は大切。
- ・大学ではリカレントやリスクリングの方に重点が移っており、生涯学習との関係が曖昧になっている。生涯学習は働く前の世代と退職後の世代が中心で、世間的には働いている世代のリカレントやリスクリングと区別される。県ではどのように整理されるか。
→リカレントやリスクリングは、首長部局の所管となる部分が大いことから答申（素案）では直接触れてはいないが、第4章において県の役割として首長部局との連携を促進していくこととしている。
→今日的な状況も踏まえ、継続して検討したい。
- ・大人が楽しく学ぶ姿勢を子どもたちが見ることで、子どもたち自身も学ぶことが楽しい、おもしろいと感じると思う。生涯学習をいろいろな人が楽しめるようにできるとよい。

(3) 事務局報告

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に関する取組について

本会の建議「地域の特性を生かした持続可能なコミュニティ・スクールと地域学校協働活動に向けて」（令和4年9月22日）を受け、事務局の取組について報告した。

（事務局の説明概要）

- ・各種研修会の開催や、広報、啓発を実施し、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の充実に努めている。
- ・今後、鳥取県家庭教育推進協力企業制度を活用した放課後子供教室への出前講座の実施も予定している。

令和7年度第3回鳥取県教育審議会生涯学習分科会兼鳥取県社会教育委員会議名簿

氏名	所属・職名等	備考
赤嶋美和子	倉吉市立関金小学校長	
池田 緑	鳥取県子ども読書アドバイザー	
植田 紀子	株式会社新日本海新聞社編集制作局報道部長	
大堀 貴士	認定特定非営利活動法人ハーモニカレッジ理事長	
川口有美子	北海道教育大学教育学部函館校講師	会長
木村 佳奈	南部町地域おこし協力隊	欠席
小林まゆみ	鳥取県連合婦人会	欠席
清水 秀満	鳥取市美保南地区公民館長	副会長
清水まさ志	鳥取大学地域価値創造研究教育機構准教授	
谷口 千春	鳥取大学附属幼稚園副園長	欠席
津島 望	鳥取県PTA協議会副会長	欠席
中田 寛	倉吉市教育委員会教育長	欠席
福田 範子	日南町教育委員会事務局教育課総括室長兼生涯学習室長	
森脇 昇	日本ボーイスカウト鳥取連盟東部地区協議会長	